

6 自然環境の保全・活用と エコツーリズムの推進

○は学識経験者による意見聴取会に付議した事業
（「第4章 教育委員会意見聴取会」参照）

	事務事業名	ページ
①	生井公民館 ラムサール講座	P96

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No. 16

1. 基本情報				
<1> 事業・業務名	生井公民館 ラムサール講座		<2> 事業・業務の別	事業
<3> 選定基準	④ その他		<4> 継続業務・新規業務の別	継続評価
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	5 魅力ある自然環境を守り 伝統を継承するまちづくり	<6> 担当部(局)	教育委員会
	中項目	5-1 自然環境の保全・活用とエコツーリズムの推進	<7> 担当所属	生井公民館
	小項目	5-1-1 渡良瀬遊水地	<8> 担当係等	—
	施策	渡良瀬遊水地の賢明な利用推進事業		
<9> 根拠法令・計画等	渡良瀬遊水地の保全と再生及び賢明な活用に関する条例・施行規則		<10> 関連・類似事業	
<11> 会計	一般	会計	<12> 予算科目	10 款 4 項 2 目
<13> 実施期間	26 年度 ~	年度	<14> 全体事業費	千円
<15> 実施手法	直営		「その他」の場合 ()	

2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要	ラムサール条約湿地に登録された渡良瀬遊水地の地域資源の賢明かつ有効活用の視点から、遊水地に隣接する社会教育施設として、渡良瀬遊水地に生息(または飛来)する貴重な動植物についての市民向けの学習の場を提供する。								
目的	<17> 事業・業務の目的	渡良瀬遊水地内の貴重な植物、昆虫、野鳥等、各分野の研究者を講師とし、遊水地内の現地学習を軸にした講座を開設し、多くの市民の渡良瀬遊水地に関する興味関心の高揚並びに環境保護に対する啓発を図る。							
	<18> 事業・業務の対象	全ての市民(「広報おやま」「生井公民館だより」にて参加者を募る。) ※市外(定住自立圏構想内)住民の参加も可							
手段	<19> 令和4年度の活動内容	「渡良瀬遊水地自然観察会」年5回実施 内訳: 春の植物観察会(5月)、春の昆虫観察会(5月)、秋の植物観察会(9月)、秋の昆虫観察会(10月)、冬の野鳥観察会(12月) ※令和3年度秋の植物観察会については、緊急事態宣言(新型コロナ)発令により開催を自粛した。							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
		開催回数	回	計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
成果	<21> 事業・業務の成果	平成26年度の講座開設以来、毎年好評を博している講座である。現地への移動手段は遊水地内の道路幅の都合上、市マイクロバスを利用(大型バス不可)しており、さらに現地の学習環境の都合上、定員を12名としているが、「植物観察会」「野鳥観察会」については募集開始当日のうちに定員に達してしまう状況である。男女を問わず、多くの市民の遊水地に関する高い学習意欲を充足させている講座と言える。							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
		参加人数	人	計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度		投入率(%)	
			千円	計画	実績	計画	実績		
		事業費等	千円	50	40	50	50	100.0%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源	千円	50	40	50	50	100.0%	
人件費	千円	441	441	441	441	100.0%			
正職員	千円 × 人工	7,616 × 0.01	7,616 × 0.01	7,515 × 0.01	7,515 × 0.01				
他の職員	千円 × 人工	1,816 × 0.2	1,816 × 0.2	1,823 × 0.2	1,823 × 0.2				

3. Check – 評価 –

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	2.変わらずにある
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1.妥当である
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？	1.大きい
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		2.検討は困難である	
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	4.該当しない	
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地はある	理由 観察の対象が「植物」「昆虫」「野鳥」と分野がそれぞれ異なるため、参加申込者の一部には重複もあるが、講座ごとに幅広い市民層からの参加希望が寄せられている。また、自然を相手とした学習会でもあり、季節によって学習素材が変わることもあるため、実施回数を増やし年間を通じた定点観察も有効であると考え。定住自立構想圏(野木町)からの継続参加者もいるため、広報の仕方にも一考の余地はあるものと思われる。	

4. Action – 改善 –

事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点	現地(遊水地内)への移動手段(道路幅の都合によるマイクロバス利用)及び学習効率の都合上、1回の観察会の定員は最大でも12名が上限となっている。また、毎回、参加者の学習意欲や知識の水準が高まっていることもあり、高度な知識を有する講師の選定と学習内容の充実が求められる。		
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由 参加者のニーズ、渡良瀬遊水地の自然に精通した講師の選定、現地学習(観察)に適した時期や場所、移動手段としての市マイクロバスの定員を総合的に判断すると、分野・時期・実施回数とも現状維持が適切と考えられる。
	<36> 2次評価	教育部長	3.現状維持	理由 渡良瀬遊水地の自然に精通した講師による現地学習を主とした講座は、市民が遊水地に対する興味・関心を高める生涯学習の場としての意義は大きい。 また、より多くの市民への参加を促すことで、小山市民全体の渡良瀬遊水地に対する興味・関心を高め、自然保護・環境保全についての意識向上を図るため、今後もラムサール講座の実施に努める。

5. Plan – 計画 –

事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針	今後も参加者のニーズに合わせ、渡良瀬遊水地を管轄する国土交通省利根川上流河川事務所や小山市立博物館等と連携し、適切な現地観察場所の選定や必要物品の貸出協力の要請を行いながら観察会の実施を進めていきたい。 また、「湿地」という特殊な学習環境であること、近年、遊水地内での有害鳥獣(イノシシ)の目撃例が増加していること等を鑑み、参加者の安全を最優先した実施に配慮する。				
	<38> 活動・成果目標	渡良瀬遊水地の環境保全に対する市民の意識を高めるため、より幅広い市民の参加を得よう「広報おやま」「生井公民館だより」等により講座開催を周知する。 また、遊水地の自然に関心の高い市民(講座既受講者を含む)からの問い合わせにも丁寧に対応し、より多くの参加者の確保に努めていきたい。	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
			千円	464	491	
			事業費等	千円	50	50
			人件費	千円	414	441

